

(令和5年度)
自己評価書

園番号	園名
626	奈良市立二名幼稚園

626奈良市立二名幼稚園

大項目	中項目	小項目	具体的評価項目及び指標	取組と成果	評価	評価の観点・理由	課題及び改善方策
I 教育・保育活動に関するもの	(1) 教育・保育目標/計画	① 教育・保育目標の設定	<ul style="list-style-type: none"> 園の教育目標「心豊かで心身ともにたくましく生きる幼児の育成」に向けて教育計画の作成、教育課程の編成を行う。 幼稚園教育要領、奈良市子ども園カリキュラムに基づいた教育課程を適正に実施する。 学校評議員や保護者に園評価アンケートを実施し、評価を検証して公表し、次年度につなげる。 	<ul style="list-style-type: none"> 園の教育方針や教育ビジョンを園職員で共通理解し、教育目標の達成に向けて適宜評価反省をしながら次回につなげていった。 園児の育ちやアンケートの結果や園の一年間の取り組みを評議員や保護者の配布し、幼児教育の啓発を行った。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 園の教育目標について話し合い、その中で、教材研究をしたり環境や援助の見直しなどをした。 園評価アンケートで環境構成や保育内容を工夫して園経営をしているとの評価を得た。 	<ul style="list-style-type: none"> 評価の指標となる具体的な目標について職員間で研修していく。 園評価を検証し、改善点は出来る限り早急に対応していく。
		② 教育・保育計画の作成					
		③ 教育課程/全体的な計画の編成					
		④ 教育・保育活動の評価					
	(2) 教育・保育内容/指導	① 指導計画の立案	<ul style="list-style-type: none"> 幼稚園教育要領、奈良市立子ども園カリキュラムの内容に沿い、発達段階に応じた保育内容の検討や指導計画の立案をする。 援助や環境構成について着目し話し合い、ひと・もの・こととの出会いを大切に保育を実施する。 主体的に遊びが進められる環境構成や援助の在り方を職員間で探り、共通理解を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 研究主題を設定し、環境や援助、保育内容の見直しをすることで、子ども自ら主体的・意欲的に取り組む姿や継続的に遊ぶ姿があった。 日々の保育内容の振り返りをする中で、職員間で話し合い共通理解を図り、同じ思いで進めていった。 園内研修や事例研修をもとに、具体的な話をすることで、課題を見つけ改善していった。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 子ども理解や発達に応じた指導方法、子どもが主体的に、心を揺り動かす体験の積み重ねに向けての保育内容の工夫などについて話し合い、職員で取り組んだ。 保育内容を工夫し、子どもの遊ぶ姿や成長が保護者にも伝わり、良い評価を得た。 	<ul style="list-style-type: none"> 保育の質の向上を目指して、子どもの育ちにつながる教育活動になるように、反省や評価・課題を職員間で振り返り共通理解を図っていく。 子どもの姿を常に意識し、現状に満足せず、保育内容や指導方法を高め合っていくことでより活性化を図
		② 保育内容の精選					
		③ 指導方法の工夫改善					
		④ 評価					
	(3) 園行事	① 指導計画の立案	<ul style="list-style-type: none"> 感染症拡大防止対策を工夫し行いながら、季節や発達に応じた指導計画の見直しを行い、子どもが主体となる内容を精査する。 保護者、地域と連携した行事の実施を行う。 小学校と連携して創立50周年記念事業の取組を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 感染症拡大防止対策を行いながら、特色ある園行事を実施した。 子ども達に今、身に付けさせたい力を明確にし、職員間で共通理解を図りながら取り組んだことで、指導が焦点化され子ども達の成長につながった。 行事前には必ず細かい打合せをし、終了後には評価・反省を行い来年度につなげるようにした。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 職員間の話し合いを大切にし、コロナ禍でできる限り有意義な活動となるよう計画、準備を行った。 保護者アンケートや懇談会を通して、保護者から園ならではの豊かな体験ができていると高評価を得ている。 	<ul style="list-style-type: none"> 保護者や地域の協力を得ながら、感染対策を行い、内容や方法を工夫し様々な体験活動青を実施して心揺さぶられる魅力ある園行事をおこなって行きたい。
		② 行事内容の精選					
	(4) 人権教育	① 人権教育指導計画の立案	<ul style="list-style-type: none"> 自分を大切にすると共に、青手への思いやりの気持ちが育つような保育を立案し取組を進める。 自尊心や自己肯定感が育まれる活動、発達段階に応じた教材の活用、友達や保育者と遊ぶことが楽しいと感じられる保育内容の充実を図る。 様々な人と触れ合う機会を持ち、豊かな心が育つよう保育内容の充実を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 友達と遊ぶ楽しさや、自分とは違う考え方があり、それを受け入れ、互いに認め合い、困難なことや悲しいことや嬉しいこともみんなで話し合うことで、支え合う仲間つくりが出来てきている。 保育者自身が柔軟な人権感覚をもち個々の子どもを尊重し命の大切さや一人一人が大切な存在であることの指導を行った。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 具体的な子どもの姿や課題を出し合い、取り組みの実践についてその都度職員で話し合い、一人一人に応じた保育の実践を行った。 	<ul style="list-style-type: none"> 遊びや生活の中で、一人一人の良さをさらに認め合える取り組みを進める。 職員自ら、人権感覚を磨き、お互いに向上していく職員集団を目指す。また、子どもに寄り添いながら子ども達の自己肯定感を育む。
		② 保育内容の精選					
		③ 指導方法の工夫改善					
	(5) 生徒指導	① 組織的な指導	<ul style="list-style-type: none"> 毎日の保育の中で子ども一人一人について情報共有し、支援の方法について話し合い、職員共通理解のもとで適切な指導を行う。 家庭や専門機関との連携を図り情報収集に努め、より良い支援を探り実践する。 	<ul style="list-style-type: none"> 職員が気になる子どもの情報を出し合い、早期発見・対応に努めるようにした。 保護者の不安や子育ての相談を職員間で共通理解し、全職員で取り組む。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 家庭や専門機関と連携し、職員で共通理解し力を合わせて臨機応変に対応し、一人一人を大切に丁寧な取り組みができた。 職員間の協力体制が構築され、適切な支援ができています。 	<ul style="list-style-type: none"> 専門機関と連携を取りながら、情報を得て、特に配慮を要する子どもや保護者への適切な対応を進め、全園児のより良い成長につなげる。
		② 教育相談・幼児理解					
		③ 家庭との連携					
		④ 関係諸機関との連携					
		⑤ いじめ・児童虐待問題について	・対処方針や指導計画が明確である	<ul style="list-style-type: none"> 日々保育の振り返りを行い、職員間で実態や課題、対策を共有することが出来た。また、一時預かり保育者との連携・共有を大切にした。 地域や各種の会議で園での様子についての情報交換をする。地域の方々の見守りへの感謝の気持ちを伝えた。 保護者に園での様子を降園時やホームページできめ細やかに伝えたり、職員が家庭での様子を知るなどして信頼関係に努めた。 	B		
			・日頃より実態把握・早期発見に努めている		A		
			・各学級の状況を園組織として共有できている		A		
			・保護者や地域と連携できている		B		
	(6) 特別支援教育	① 推進体制	<ul style="list-style-type: none"> 全職員が支援を要する子どもについて共通理解をする。 子ども一人一人に実態に即した教育内容や指導方法、援助の仕方を工夫する。 専門機関、特別支援コーディネーターと連絡を図り、専門家の意見を参考にしながら、クラスでの効果的な支援の方法を探る。 保護者の思いに寄り添い、連携を図りながら、ともに子どもの姿を見守り支援していく。 	<ul style="list-style-type: none"> コーディネーターや関係機関等の意見を参考に、支援を要する子どもの特徴や支援方法を職員間で共通理解することが出来た。 個々の指導計画等については特別支援コーディネーターの指導を受け、見直しをした。 一人一人に即した視覚支援教材を作成し活用することで、活動意欲につながった。 家庭と関係機関をつなぎ、適切な支援の方法について、園と家庭が共有しながら取り組むことが出来た。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 職員間での話し合いを繰り返し、一人一人の実態把握と幼児理解を全職員で共有し、支援方法を共有した。 子どもの発達に合わせて視覚支援教材を何度も作り変えて対応した。 	<ul style="list-style-type: none"> 個々のおかれている現状と発達、課題などを把握し、関係機関等と連携を取りながら対応していく。 保育内容など保育者の指導の改善に向けて研修をさらに積み重ねる。 今後も工夫を重ね、保護者との信頼関係の構築に努める。
		② 個々に応じた特別支援教育の内容					
③ 指導方法の工夫改善							
④ 家庭との連携							
⑤ 関係機関との連携							

(令和5年度)
自己評価書

園番号	園名
626	奈良市立二名幼稚園

626奈良市立二名幼稚園

大項目	中項目	小項目	具体的評価項目及び指標	取組と成果	評価	評価の観点・理由	課題及び改善方策
Ⅱ 園 経 営 に 関 す る も の	(1) 組織運営	① 園長のリーダーシップ	<ul style="list-style-type: none"> 園経営や教育ビジョンについての考えを明らかにし周知する。 園務分掌では全職員が業務内容を理解し助け合える環境を整える。 職員の適正配置と、それぞれがもつ個性を柔軟に受け止め、一人一人が生き生きとやりがいをもって取り組める環境づくりをする。 情報交換や課題の場として位置づけ、見通しを持った指導内容を実現するための綿密かつ効率的な職員会議を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 園の教育ビジョンを作成し、ビジョンに基づき、保育の方向性を明らかにすることが出来た。 園教育目標・研究主題について共通理解を図り、目標に向かって保育を推進することができた。 一人一人の心身の健康状態や勤務状況・適性を把握し、共働的な職場づくりに努めた。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 全職員で園の教育ビジョンや教育目標、園の主題等を共通理解し、同じ思いで取り組んでいくことが出来た。 園の課題や問題については、全職員で協議・検討し、改善に努めるようにする。 	
		② 園経営目標・方針			A		
		③ 職員の適正配置と運営への参加意識			A		
		④ 園務分掌等の連携			A		
		⑤ 会議の運営と位置づけ			B		
		⑥ 会議の結果			A		
		⑦ 職場の人間関係			A		
		⑧ 園評価の実施			A		
	(2) 研究・研修	① 資質の向上をめざした組織的・計画的な園内研修の実施	<ul style="list-style-type: none"> 公開保育や研修会、事例研修会などに積極的に参加し、学びを共有し職員の資質向上に努める。 園内研修会では、他園の職員と共に研修を深めて保育者の資質向上を目指す。 研究主題や事例研修を通して、具体的な子どもの姿を出し合い、主体的に遊ぶための環境や援助について探り共通理解を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 数多くの研修やリモート研修に参加し、様々な学びを得て保育に取り入れ活かすことができた。 研究主題を目指して、保育内容の研究を積み重ね、学びを伝え合い、高め合うようになってきた。 園内研修会や実践事例を書くことで具体的な子どもの姿を出し合い、そこから主体的に遊ぶための環境や援助について探り共通理解を図るようになった。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 園内外やリモートなどの研修に数多く参加できる体制をとった。 研修で学んだことを園内で報告し、共有する機会をつくった。 具体的に事例をあげながら話し合っていくことで、より明確に取り組んでいくことができた。 	<ul style="list-style-type: none"> 他園での保育内容や実践などの研修に参加し、職員の資質向上につなげていく。 職員で研修して学んだことを共通理解していき、研究主題に向かって同じ気持ちで学び合えるように、引き続き研究していく。 研修に参加できる体制を工夫していく。
		② 保育改善を目指した保育研究・実践の実施			A		
③ 園外の研修への積極的参加		A					
④ 園外研修内容の共有		A					
⑤ 研修成果の普及		B					
(3) 安全管理	① 安全計画の立案	<ul style="list-style-type: none"> 危機管理、安全管理マニュアル、防災計画を見直し作成し、共通理解しておく。 毎月の避難訓練を適切に実施し、防災に対する意識を高める。 交通安全指導の徹底、地域にも周知する。 	<ul style="list-style-type: none"> 月1回の避難訓練で子ども達には命を守る大切さを、年2回の通報訓練では職員がとっさの時の通報の対応を身に付ける機会を持つことが出来た。 交通安全教室で警察署より保護者向けにも話をしてもらい、家庭でも安全指導に取り組めるようにした。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 危機管理マニュアルを常に意識し、理解を図る。 園の取り組みを保護者や地域に発信し、家庭や地域との連携を強化する。 保護者に交通安全教室に参加してもらうことで、安全指導について理解してもらうことができた。 	<ul style="list-style-type: none"> 危機管理意識を今以上に職員に周知し、どんな場面でも的確に且つ迅速に対応できるように共通理解を図っていく。 	
	② 防災計画の立案			A			
	③ 危機管理体制の整備			B			
	④ 安全指導の工夫改善			B			
	⑤ 家庭との連携			A			
	⑥ 関係機関との連携			B			
(4) 保健管理	① 保健計画の立案	<ul style="list-style-type: none"> 感染症対策を念頭に健康で安全な生活に必要な習慣（うがい・手洗い・漢音・マスク着用・換気等）や態度の育成のための指導計画を実施する。 日々の健康観察と健康診断、身体測定により子ども達の発達の様子を観察する。 食事時等の衛生管理を徹底する。 園医や看護師、関係機関と連携し、子ども達の健康管理を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 感染症対策を徹底し、情報を共通理解して感染拡大防止に細心の注意を図った。 保健計画に基づく保健指導や健康管理に努めた。 室内外で体を動かす遊びを多く取り入れ、子ども達や保育者も体力づくりへの意識が高まった。 アレルギー児対策として、教材や園で提供するおやつを選別を徹底したため、アレルギーをおこしたり誤食をすることがなかった。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 保護者と共に連携し、感染症対策や健康管理に努めることができた。 アレルギー児へのおやつ提供の際には、事前に成分表を保護者にも確認してもらい、全員で同じものを食べることで事故を防ぐことができた。 	<ul style="list-style-type: none"> 感染情報の収集と実行の徹底に努める。 室内の湿度・温度の計測、換気等を今後も徹底して行う。 成分表等の確認を徹底する。 	
	② 心のケアや健康相談の体制の整備			B			
	③ 健康観察、健康管理能力の育成			A			
	④ 関係機関との連携			B			
	⑤ 昼食の衛生管理			A			
(5) 地域との連携	① 園情報の発信	<ul style="list-style-type: none"> 園の取り組みや子ども達の様子などを、園だよりやクラスだより、ホームページ等で、保護者や地域に情報発信する。 地域や小学校との交流は、感染症拡大防止対策を徹底し出来る限り行う。 コミュニティースクール会議や地域の連合会の定例会、地域主催の行事などに参加する。 学校評議員会を開催し、園の保育教育に理解と協力を得る。 	<ul style="list-style-type: none"> 園だよりやクラスだより、ホームページ等で園の取り組みや子ども達の様子を発信した。 「地域で決める学校予算事業」の効果的な活用により、豊かな体験活動ができ、また、地域の温かさやも守りに喜びを感じる事が出来た。 学校評議員の方々には、七夕集会・運動参観・生活発表会・作品展等の様子を見て頂き、高い評価を得ることができた。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 園だよりやクラスだより、ホームページ等で、園の取り組みや子ども達の様子を発信することができた。 コロナ禍で制限のある中であつたが、地域との連携を図りながら関わりを持つことができた。 	<ul style="list-style-type: none"> 引き続き、園の取り組みや子ども達の様子を、園だよりやクラスだより、ホームページ等通して、わかりやすく丁寧に発信していく。 地域との関わりを大切にしながら、地域との組みを共に進めていけるように立案し、取り組んでいく。 	
	② 園(保育)公開			B			
	③ 小学校との接続・連携			A			
	④ こ幼保との連携			B			
	⑤ P T A ・保護者会の活性化			A			
	⑥ 地域教育協議会との連携			A			
	⑦ 学校関係者評価の実施			A			
(6) 施設・設備	① 保育環境の整備	<ul style="list-style-type: none"> 保育環境の整備が充実し、効果的に活用をしている。 施設の美化清掃に努め、危険箇所・修理箇所の整備、日常的な点検・管理を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 予算を有効・計画的に執行し、安心して遊べる保育環境、花壇、畑等の整備の充実を努めた。 園舎内外の点検を常に行い、園で修理したり市に修繕依頼をしたりして安全な環境づくりを迅速に行った。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 子どもの安全面に留意し、点検や改善を行い、保育環境を整えた。 施設面では、園で対応できない修理や修繕の際には迅速に対応し改善してもらった。 	<ul style="list-style-type: none"> 遊びの環境は日常的に見直し、工夫をしていく。 安全安心な園生活が送れるように、点検を怠らず、危険箇所等、職員間で周知徹底していく。 	
	② 施設設備の有効利用			A			
	③ 施設設備の管理			A			
(7) 情報管理	① 公文書の收受・保管	<ul style="list-style-type: none"> 物理的なセキュリティー対策として、パソコン・カメラなどの保管、また、人的な情報セキュリティー対策として職員間で情報漏洩防止対策の共通理解をする。 	<ul style="list-style-type: none"> 情報セキュリティーについては媒体使用簿、デジカメ管理簿などの記入を徹底した。 個人情報の取り扱いについては管理保護を行い、全職員への周知を徹底した。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 個人情報に関するデータの保管や管理を徹底した。 	<ul style="list-style-type: none"> 職員全員が危機感を持ち、個人情報の取り扱いについての意識をさらに高めていく。 	
	② 公文書の作成			A			
	③ 個人情報の管理・保護			A			
	④ 情報の収集			B			
	⑤ 電子媒体の管理			A			